

キリスト教手話と 出会って

原田満留(小石川教会)

地域で手話を学び始めた頃、本屋で小嶋三義先生の「やさしい手話—キリスト教手話入門」(キリスト教視聴覚センター)に出会いました。冊子のような薄いものでしたが、教会手話の魅力にグングン引き込まれていきました。手話で「福音は「神」+「愛」+「教え」。「信仰」は「主」+「受け入れる」と表すのです。いつも見聞きする聖句も、手話にする

るのを感じました。

ろう者がおられること、手話通訳があることに惹かれ、私は小石川教会に導かれ、それまでの所属教会から転会をしました。そして教会手話研修の場で、小嶋先生ご本人との出会いも与えられました。

小嶋先生には教会手話通訳をイロハから教えていただきました。「教会手話通訳は説教を聞き、心で感じて自分の内に絵を描き、それを手で表すのですよ。ろう者はあなたの手話の中に絵を見ているのです。」「手話通訳者は、牧師と同じスタイルをかけているのです。手話をしている時、イエ

スさまと繋がっているのですよ。」との教えは、私の教会手話通訳の原点になっています。

通訳は、大変でないと言えばウソになりますが、事前に送られてくる徳野昌博牧師の説教を何十回も読むものですから、いつも祝さ

れている自分に気づかされます。通訳の時、自分では分からない手話表現は礼拝前にろう者の方に教えていただいたりします。頷きながら温かく見守ってくれるろう者の方。手話が見やすいように照明に心を配ってくださる方。「通訳ご苦労様。ありがとうございます。」と笑顔の方。で

きたての原稿と共に「質問でも何でも聞いて！いつでも力になりまっせ！」と、ひょうきんにサポートしてくださいさる徳野牧師。励まし合える通訳仲間など、多くの方々を支えられながら、手話通訳者として立たせていただいています。

今回、小嶋先生の新刊「手話で福音を伝えよう」(キリスト教視聴覚センター)の発刊により、新しく手話通訳者が起こされることを祈っています。

